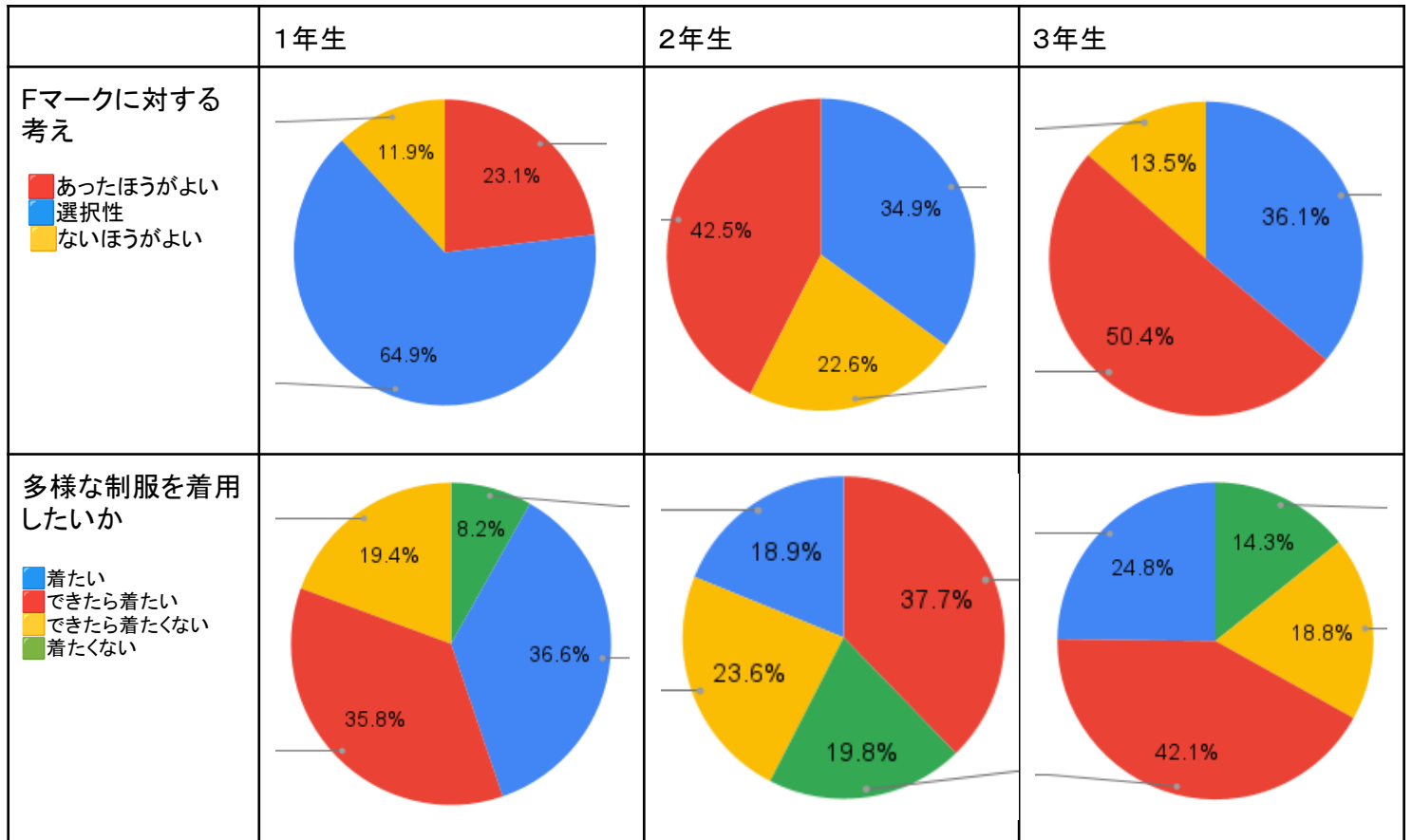


9/22学級討議後 アンケート結果 学年別比較



○Fマークに対する考え

- ・学年が上がるにつれて■「あったほうがよい」の数値は上がっている。

附属で制服を着て過ごすことで愛着が湧くとともにマークなどに対する認識も変化している
 (マークがあることによる所属感や制服としての意義など)

理由としては、「制服の種類が増えるからこそ統一する部分があったほうがよい」や「マークがあることで帰属感や登下校の安全性につながる」などの意見があった。

- ・■「ないほうがよい」の理由は「選択性はない」その上でどちらでもよいなら「ない」でもよいのではないかという意見がある。

また、「メリットがない」という回答が複数あることから多面的に考えることができている生徒がいることがわかる。

- ・■「選択性がよい」と答えた生徒の多くは、主体的な意見よりも、「どちらの考え方も理解できるから」や「自分をつけたいけどつけたくない人もいるから」などの理由が多く、具体的な選択性である必要性についての言及は少なく感じる。

○多様な制服に対する考え

- ・全体として7割近い生徒が新しい制服に対して肯定的な考えになっており、以前よりも増えている。制服の選択性についての理解と受け入れる気持ちができていると考える。しかし3割強の生徒が多様な制服を■「できれば着たくない」■「着たくない」と回答しており、一定数の生徒が新しい制服に抵抗感があることを理解する必要がある。

しかし、抵抗感があることと多様性を否定し、受け入れないことは違うことと捉え、道徳教育などで様々な考え方を受け入れる素養作りに努める必要があると考える。